



図 2.12 グラフ

存在する。これらの公理系を詳細に紹介することは本稿の目的ではないので、ここでは省略する。公理系の詳細に関しては、たとえば [4] (前回参考文献)などを参照されたい。マトロイドに関する理論と応用を含めてよく用いられる概念を2つ紹介しよう。1つはマトロイドの

ループ(loop)であって、要素 e がそれだけで従属な集合である時に要素 e はループをなすと言われる。前に紹介したグラフの弧の集合上のマトロイドについては、図2.12にあるように弧 e_1, e_9 がそれぞれループである。なおループをなす要素 e に対してマトロイドの階数関数 ρ が $\rho(\{e\})=0$ を満たすことは明らかであろう。

もう1つの概念として、集合 E 上の2つの要素 e_i, e_j が平行(parallel)であるとは、2つの要素のそれぞれはループではないが、 $\{e_i, e_j\}$ は従属な集合である場合を言う。この時階数関数に関しては、 $\rho(\{e_i, e_j\})=1$ となる。図2.12のグラフの弧を対象とした前述のマトロイドにおいては、 $\{e_4, e_5\}$ および $\{e_6, e_7\}$ がそれぞれ平行な要素の集合であることも明らかであろう。

昭和55年度論文審査委員

昨年度投稿論文の審査委員は次の方々でした。本学会論文誌のレベルを維持するために多大のご貢献をいただいたことを厚くお礼申し上げます。(編集委員会)

阿部 統, 阿部 俊一, 伊理 正夫, 飯田 孝久, 生田 誠三, 石井 博昭, 茨木 俊秀, 岩本 誠一, 内田 富夫, 江藤 肇, 小河原正己, 大野 勝久, 岡本 吉晴, 奥野 忠一, 加地 郁夫, 加藤 直樹, 加藤 豊, 加納 悟, 金子 守, 木瀬 洋, 古林 隆, 坂口 実, 阪田省二郎, 逆瀬川浩孝, 沢木 勝茂, 嶋田 正三, 島 公脩, 鈴木 和幸, 鈴木 光男, 鈴木 武次, 田辺 国土, 田畑 吉雄, 高橋 啓郎, 高橋 幸雄, 高橋 豊, 竹内 啓, 刀根 薫, 中川 覃夫, 中村 義作, 中村善太郎, 中森真理雄, 鍋島 一郎, 西田 俊夫, 西村 彰一, 西関 隆夫, 橋田 温, 鳩山由紀夫, 伏見 正則, 藤沢 武久, 古川 長太, 真壁 肇, 牧野 都治, 松田 武彦, 三根 久, 宮原 秀夫, 武藤 滋夫, 森村 英典, 柳井 浩, 山下 浩, 山本 芳嗣, 山本 正明, 山田 敬吾, 吉田 照彦, 河合 一

昭和56年度役員・委員・幹事

本学会の昭和56年度役員・委員・幹事は次の方々です。

役員
 会長 松田 武彦
 副会長 今川 貞郎 本告 光男 渡辺 浩
 庶務 川野幸三郎 浜 民夫 柳井 浩
 会計 中井 直男
 編集 伊理 正夫 小林 竜一
 研究普及 池田 孝 古林 隆
 国際 高森 寛
 無任所 青沼 龍雄 飯原 慶雄 新沢 雄一

監事 名和小太郎 宮川 公男

編集委員会 [OR誌担当]

委員長 小林 竜一 副委員長 村越 稔弘
 委員 生田 誠三 大江 秀和 長田 洋
 木村 興治 佐々木浩二 城 信雄
 藤川洋一郎 山下 達哉 横山 和夫
 渡辺 健
 幹事 荒木 勉 藤井 一郎 堀 良

[論文誌担当]

Editor 伊理 正夫
 Associate Editor 阿部 俊一 大山 達雄 今野 浩
 若山 邦紘
 Advisory Board 青木 兼一 五十嵐日出夫 出居 茂
 佐々木 綱 齊藤 嘉博 千住 鎮雄
 竹内 清 竹内 啓 西田 俊夫
 古川 長太 松田 武彦 三根 久
 宮川 公男 本告 光男 渡辺 浩

研究普及委員会

委員長 本告 光男
 理事 池田 孝 古林 隆
 委員 荒木 陸彦 飯田 孝久 大山 達雄
 小出 治 茂原 一洋 神保 雅一
 高井 英造 高瀬 賢一 寺野 隆雄
 松田 寿子 武藤 滋夫 山本 芳嗣

IAOR委員会

委員長 岡本 吉晴
 委員 上田 徹 大山 達雄 川嶋 弘尚
 小島 政和 中森真理雄
 庶務幹事 浦谷 規 坂内 広蔵 平野 和夫
 会計幹事 丹羽 明 山口 俊和
 国際幹事 伏見 正則